

## のみ地域力強化支援ファンド 1周年記念イベントを開催

11月21日、辰口福祉会館で「のみ地域力強化支援ファンド1周年記念イベント」を開催しました。

公益財団法人さわやか福祉財団会長の堀田力さんが「まだ幸せになる道は残されている」と題した助け合いの大切さについての講演を行いました。

またファンドを活用して互助活動を進める6団体7人と堀田さんによるパネルディスカッションでは、活動に関するさまざまな知恵が出されました。活動者からは「楽しいから続けられる」という熱い思いが語られました。



ファンドを活用して互助活動を進める6団体7人によるパネルディスカッションの様子

そのほか、地域における支え合い・助け合いの仕組みづくりを推進するため、公益財団法人能美市ふるさと振興公社、公益財団法人さわやか福祉財団、能美市の3者による包括連携協定を締結しました。

また、のみ商業協同組合からののみ地域力強化支援ファンドに対し、ご寄附をいただきました。

ファンドを活用して互助活動を進める6団体7事業の活動状況を動画で紹介しています。

移送支援編



つながりの場・移動販売編



公益財団法人能美市ふるさと振興公社、公益財団法人さわやか福祉財団、能美市の3者による包括連携協定締結の様子

## 日本航空の客室乗務員が能美の魅力を発信

11月27日から30日にかけて、国造地区で栽培されている「国造ゆず」と「のみバス」による市内観光をテーマにしたプロモーション動画2本を撮影しました。

地域貢献を目的とした日本航空の客室乗務員（CA）による「ふるさと応援隊」のメンバー吉田千晃さんと岩鼻夏子さんが、CAの上品な語り口で、能美の魅力を紹介しよう。動画は3分程度で、旅行会社への宣伝に使ったり、デジタルサイネージなどに流して広く発信する予定です。



ゆず畑を紹介する吉田千晃さん

## スマート農業推進に向け 最新技術の活用事例を紹介

11月27日、辰口福祉会館で農村DXパネルディスカッションを開催し、市内の農業関係者ら約40人が参加しました。

第1部では、能美市でスマート農業機械を導入している農業者から、直線アシスト機能付き田植機やドローンなどの活用事例による導入効果、課題について発表がありました。第2部では、スマートフォンを活用した音声つばやきシステムやドローンによる多面的利用などの活用事例が紹介されました。参加者は、農作業の省力化につなげようと真剣な表情で聞き入っていました。



第1部で田んぼの水管理について説明する有限会社たけもと農場の竹本彰吾さん



### 第1回「能美市子ども未来創造フェスティバル」4部門の大賞決定

産学官の連携により、能美市の未来を創る人間力豊かな人材の育成をねらいとした第1回「能美市子ども未来創造フェスティバル」児童生徒作品展が、11月にオンラインで開催されました。

市内小中学校から「科学研究部門」、「自由研究部門」、「ものづくり部門」、「ICT部門」の4部門に計353点の出品がありました。その中から各部門の大賞に1点ずつ、優秀賞には4部門合わせて103点が選ばれました。表彰式では審査委員長の北陸先端科学技術大学院大学の鈴木寿一教授から「どの作品も丁寧な観察やフィールドワーク、制作が行われ、テーマにあるふるさと愛を感じるものでした」との講評をいただきました。

ネットPCを活用したオンライン作品展を行いました。「能美市子ども未来創造フェスティバル」は市内大学、関係企業32社などの協力を得て運営されました。

- 受賞者（左から）
- ◆科学研究部門大賞  
中川そらさん（粟生小学校5年）
  - ◆自由研究部門大賞  
東出球皇さん（湯野小学校6年）
  - ◆ものづくり部門大賞  
石山優美さん（浜小学校4年）
  - ◆ICT部門大賞  
中出伊織さん（粟生小学校6年）



### 株式会社スーパ・アロイが能美市に本社移転

航空機などの輸送用機械器具を製造する株式会社スーパ・アロイ（加賀市）が、岩内工業団地への本社移転を表明し、11月11日に同社の山下良紀社長らが市役所を訪れ、進出表明式が行われました。同社は平成26年から岩内工業団地内に工場を稼働させており、今回の本社移転により生産体制の集約と新分野への展開を図ります。

今後、既存工場の改築と新棟の建設を行い、4月からの稼働を予定しています。



左から株式会社スーパ・アロイ山下良紀社長、井出市長

### 太陽工業株式会社・株式会社太陽アスコン・イービーコンサルタント株式会社からご寄附

太陽工業株式会社、株式会社太陽アスコン、イービーコンサルタント株式会社から150万円のご寄附をいただきました。

12月10日、太陽工業株式会社清水廉太郎代表取締役社長らが市役所を訪れ、井出市長から感謝状が手渡されました。

清水代表取締役社長は「小中学校の教育の振興のために役立ててほしい」と話し、井出市長は「教育環境の充実のため、大切に使用させていただきます」と御礼を述べました。



左からイービーコンサルタント株式会社竹田和夫代表取締役社長、太陽工業株式会社清水廉太郎代表取締役社長、井出市長、株式会社太陽アスコン本田祐介専務取締役

### 外国人をサポートするコミュニティリーダーが誕生

11月20日、全8回に渡って開催された「外国人コミュニティリーダー養成講座」が終了し、5か国8名のリーダーが誕生しました。

最終回では外国人住民にとって暮らしやすい能美市を考えよう」をテーマに、これまで学んで得た防災対策や生活支援など暮らしに関する知識を基に、外国人の支援に必要なことや課題などを洗い出し、一人一人ができることを話し合いました。



修了証を手にするリーダーたちと能美市国際交流協会職員

### 能美市と姉妹都市の中学生たちが年賀状を交換

能美市と姉妹都市ロシア連邦イルクーツク州シエレホフ市の中学生たちが、互いの心を通わせ、離れた友達を身近に感じようと年賀状の交換を行いました。

市内の中学生たちが、制作に約1か月をかけて、新年の希望や期待を込めて描いた年賀状38枚が完成し、シエレホフ市へ送付しました。シエレホフ市からの年賀状は1月中旬ごろに届く予定です。



年賀状を制作する市内の中学生たち

### オクトーバー・ラン&ウォーク2021 能美市がランニング部門別で1位

10月の1か月間、全国で開催されたオンラインスポーツイベント「オクトーバー・ラン&ウォーク2021」のランニング市区町村対抗の部で、能美市が住民参加者累計距離ランキングの人口2万人以上5万人未満部門で1位に輝きました。全国約14万9千人、345自治体が参加し、月間の歩



### 各町会・町内会で敬老会を開催

今年度から市敬老会は、参加者の増加を目指し、より身近な町会・町内会で開催していただくことになりました。今年度は、20町会・町内会で敬老会が開催され（12月12日現在）、誰もが楽しめるよう工夫された催しが行われました。参加者からは「身近で顔なじみの方がいるので参加しやすい」、各町会・町内会からは「参加者の表情がいきいきと輝いていた」との声をいただきました。



敬老会を楽しむ参加者の様子



## 冬の風物詩「カピバラ湯」が開湯

11月23日、いしかわ動物園の冬の風物詩「カピバラ湯」のオープンイベントが開催されました。  
寒がりのカピバラに、辰口温泉観光協会から地元温泉の源泉の湯、市観光物産協会から20キログラムの国造ゆずがプレゼントされました。カピバラの姉妹「リン」と「シータ」は、ゆず湯に気持ち良さそうにつきり、おもしろい声を出して嬉しそうに見せ、来場者を和ませました。  
「カピバラ湯」は4月上旬ごろまで、11時から14時の間にオープンしています。



ゆず湯につかるカピバラ

## 「愛は勝つ」の弾き語りなどで観客を魅了

11月28日、根上総合文化会館で第15回能美市ファミリーコンサートが開催され、オーケストラアンサンブル金沢とゲストのKANさんが出演されました。  
今回のコンサートは2部構成で、1部はオーケストラアンサンブル金沢による交響曲の演奏、2部はKANさんとの共演でした。2部では代表曲の「愛は勝つ」の弾き語りやKANさん作曲の「イメーჯ国歌」などの演奏が行われました。



会場は歌声とオーケストラの音色で明るく楽しい雰囲気になりました

## 市内企業の魅力を発見 第5回企業訪問ツアーを開催

11月19日、市内企業の研究とキャリア形成の機会提供として、金沢学院大学生を対象に「第5回 #knowme 能美ツアー」(金沢学院大学)を主催し、発見ツアーを開催しました。

経営情報部の佐藤淳教授のゼミ生16人がローラ国内シェアナンバー1を誇る株式会社東振精機を訪問しました。担当者から、同社で製造されているローラが自動車やエレベーターなど身近にあるさまざまなところに使用されていることを聞き、参加した学生たちからは感嘆の声が上がりました。



株式会社東振精機の担当者から説明を受ける学生たち

## 県内の自治体で初 電柱広告で通学路の交通安全を注意喚起

6月に千葉県内で発生した、小学生が巻き込まれた痛ましい交通事故を受け、市では通学路の安全点検や交通安全施設の整備を行っています。

12月、能美市交通安全協会の協力を得て、市内全小中学校の通学路付近の電柱160箇所に、注意喚起の看板を設置しました。



「スピード落とせ」「通学路注意」の看板を電柱の表裏に掲示し、主に車の運転手に対して注意喚起を行っています

## 東部地区振興会が「石切り場跡」の活用を検討

東部地域の7町会で構成する東部地区振興会は、地域課題の解消や地域を元気にする「ななさとプロジェクト」を設置し、活動しています。  
11月21日、岩本町内にある石切り場跡の周辺の下草刈りと枝打ちの作業を行いました。今回の作業には、東部地区住民のほか、里山管理に地元住民と共に取り組んでいるマウンテンバイクグループのメンバーも参加しました。  
天狗橋近くの岩壁「天狗壁」周辺は、藩政期から昭和初期まで石の切り出しが盛んに行われていた場所で、石は鉄道によつ



石切り場跡での作業の様子



天狗壁周辺の石切り場跡

て金沢市内にも運ばれていました。近年は雑草や木々に隠れ、ほとんど姿が見えない状態でしたが、今回の作業で勇壮な姿を現し、参加者は地域の宝を再認識しました。  
作業後には同じ場所にある「旧能美電のトンネル跡」を視察し、地域の宝を生かした取り組みについて、今後の可能性を探りました。作業に参加した岩本町町会長で東部地区振興会副会長の滝本龍一さんは、「ふるさと愛の醸成と地域を元気にするための取り組みとして、今後も継続していきたい」と話していました。

## 人権擁護委員が市内園児たちに紙芝居を上演

小松人権擁護委員協議会能美部会の人権擁護委員が市内保育園を訪問し、人権への関心を持ってもらうため、大型紙芝居「こんにちは！元気かい？」を上演しました。

最初に訪問した寺井保育園では、年長の園児たちが人権擁護委員を出迎えました。園児たちは真剣なまなざしで紙芝居に聞き入り、友達と仲良くすること、友達を思いやることの大切さを学びました。



紙芝居に聞き入る園児たち

## 人権擁護委員の元山洋さんが法務大臣表彰受賞報告

12月9日、人権擁護委員の元山洋さん(緑が丘)が市役所を訪れ、井出市長に法務大臣表彰受賞の報告をされました。

元山さんは、平成22年に委嘱を受けて以来、11年余りの長きにわたり委員を務め、その間、地域において、人権啓発活動および人権相談などに積極的に取り組み、地域に密接した人権啓発活動を企画・実行されています。

また福祉施設などでの特設相談所の開設にも積極的に参加し、高齢者の悩みの解決に寄与するなど、地域住民への自由人権思想の普及高揚に貢献されています。



左から元山洋さん、井出市長